

ラレタイとテモライタイの意味と用法に関する考察

熊井浩子

【要旨】

本稿ではXがYニ（Zヲ）Vラレタイの意味と機能をXがYニ（Zヲ）Vテモライタイとの対比によって明らかにした。用例の比較では、ラレタイが共起する動詞に大きな制約があり、Vの対象がXまたはXと同一視できるZである場合に用いられるのに対し、テモライタイで用いられる動詞にはそのような制約はなく、XがVで表される事態に直接関わらない場合にも用いることができるという大きな違いがあることがわかった。また、互換性では、以上のような差違やXやYがコントロール出来る事態かどうかや働きかけ性、インヴォルヴメントの程度などの違いから、言い換えができる場合とできない場合があることもわかった。さらに、見ラレタイと見テモライタイの比較により、前者は一方的に視線を向けられることやなんらかの評価を望む場合に多く用いられ、後者は自己の作品などを見ることをYに働きかける行為要求の機能を持って用いられる場合が多いことが確認され、ラレタイとテモライタイの上の考察が裏付けられた。また、テモライタイの形で用いられるとテモラウの用法に変化や拡張が生じる場合があることも明らかになった。

【キーワード】 ラレタイ テモライタイ 合意 働きかけ

1. はじめに

「母がアパートに来た」という同じ事態について述べる場合、テモラウを用いた(1) bはそれが話し手にとって好ましい状況であることを表すのに対し、受身を用いた(1) aは話し手にとって迷惑な状況であることを表すように、受動態はときに不利益の意味をもつ。しかし、(2) a・bのように、両者に利益・不利益の対立が見られない場合もあり、受身という形式それ自体が無条件に迷惑あるいは不利益を表すわけではない。これに対しテモラウは、一部の用法⁽¹⁾を除いて、話し手がその事態の実現を望み、それを利益と受け止めていることを表しているとされる。

- (1) a. 母にアパートに来られた。／b. 母にアパートに来てもらった。
 (2) a. 先生に作文をほめられた。／b. 先生に作文をほめてもらった。

一方、希望・願望を表す「たい」は平叙文では通常話し手がその事態の実現を望んでいる場合に用いられる。だとするならば、例えば話し手が「先生が私（＝話し手）をほめる」ということを望んでいるのであれば、受身を用いた(3) aよりはテモラウを用いた(3) bの方が好まれそうであるが、実際にはaのような「受身+タイ（以下、ラレタイ）」の用例も決して少なくない。これは一体どうしてであろうか。

- (3) a. 先生にほめられたい。／b. 先生にほめてもらいたい。

ラレタイの用法については熊井(2006)の論考があるが、本稿では、テモラウとの対比という観点から考察を深め、ラレタイの特徴を明らかにしていく。なお本稿では今後受身や受益の主体をX、Vの主語をYとし、XがYニ(Zヲ)Vラレル・XがYニ(Zヲ)Vテモラウの形で表すことにする。

2. 受身の意味と用法

ラレタイの意味や用法を考えて行く上で、受身という文法形式がもともとどのような意味を表しているのか、また、ある種の受身が迷惑性を帯びるのはなぜかという点に触れる必要がある。例えば「雨に降られて困った」のようないわゆる迷惑受身に典型的に見られるように、もともと事態に直接関わりのない、それ故、事態自体を客観的に描いた能動文には含まれない第三者が加わることによってはた迷惑の意味が生ずるなど、ある種の受身が迷惑の意味をおびることは間違いない。しかし、迷惑受身に限らず、(4)aのような直接受身であっても、能動文(4)bにはないマイナスの意味が生ずることもある。

- (4) a. わたしはバイト先で部長に見られた。／b. 部長はバイト先で私を見た。

久野(1983)はインヴォルヴメントという概念を用い、受動文の主語が埋め込み文によって表される行為・心理状態にインヴォルヴしている度合いが高いほどその受身文は中立受身として解釈されやすく、その度合いが低いほど迷惑受身としての解釈が強くなると説明する。さらに、柴谷はこのインヴォルヴメントの概念の精密化が必要であると示し、身体部分の中心・周辺という区別及び作用のインパクトという観点から、インヴォルヴメントに替わる関連性及び意味補給による説明を試みている。

例えば(5)aには能動文が表す以上の迷惑の意味はないが、(5)bは能動文にはない迷惑の意味が含まれる。このaとbの迷惑性の違いはインヴォルヴメントや関連性という観点から説明できる。bの「もむ」に比べればaの「刺す」のほうが動作のインパクトが強く、「私」が動作により強くインヴォルヴされていると言える。しかし、cの場合はどうだろうか。cにはbのような迷惑の意味は感じられない。bとcにはどのような違いがあるのだろうか。

- (5) a. 私は駅のホームで突然肩を刺された。／b. 私は駅のホームで突然肩をもまれた。
c. 私は駅のホームで突然肩をたたかれた。

山内はXがYニZヲVラレルの場合に、「Zヲ」を省略しても文の意味が変化しないかどうかによってXがその行為を直接的に受けているかどうかを調べるテストを行っている。山内自身は言及していないが、Xがその行為を直接受けということはXが動作にインヴォルヴされる程度が高いということになるであろう。aは「Zヲ」を取っても意味は変わらないが、bとcは「Zヲ」を取ると意味が変わらないしは文として不自然となる。このテスト

の結果から(6) bとcにおいては、それぞれ「もむ」「たたく」という動作は「肩」に向かっており、直接「私」が受けていないことがわかる。これはaに比べてb・cにおいて「私」が行為に直接インヴォルヴされている程度が低いということを意味するであろう。

- (6) a. 私は駅のホームで肩を刺された。／a'. 私は駅のホームで刺された。
 b. 私は駅のホームで肩をもまれた。／b'. *私は駅のホームでもまれた。
 c. 私は駅のホームで肩をたたかれた。／c'. #私は駅のホームでたたかれた。⁽²⁾

とすると、b・cともに迷惑の程度が高くなりそうであるが、実際はそうではなく、この迷惑性の差違はインヴォルヴメントや関連性では説明できない。この点に関し熊井(2006)は、ある種の受身がもつこうした迷惑性の一つは、インヴォルヴメントの程度という要因に加え、受身が、ある事態が話し手のコントロールできない形で一方的に降りかかってくることを表す表現形式であることから生ずるものであることを考察した。即ち、本来はXの合意の下に成立すべき事象が、Xのコントロールできない形で降りかかってきたとXが捉える場合に、能動文にはない迷惑感が出現するのである。例えば(6)のb・cでは、bの「肩をもむ」という行為は通常 Xが了解して行われる行為であるが、cのような注意を引くという意味での「肩をたたく」は通常Xの合意を必要とせずに行われる行為である。それ故、受身形にした場合、cには迷惑の意味はなく、bには能動文にはない迷惑の意味が出てくることになる。そして、そのような行為が両者合意の上で行われ、Xにとって望ましい事態である場合には寧ろテモラウをつけるのが普通となる。

- (7) a. 私は駅のホームで肩をもまれた。／b. 私は駅のホームで肩をもんでもらった。

逆に、インヴォルヴメントが低くなく、通常Xの合意なしに一方的に成立する事態の場合には、受身という形式をとったことだけで迷惑の意味が生ずることはない。例えば(8)で、aの「英語を教える」は通常XとYの合意の下になされる行為であるが、bの「意外な事実を教える」はXの予期しない状況で成立する。それを受身形にしたaには迷惑なニュアンスがあり、bにはそれがないのはこのためであると考えられる。

- (8) a. 私は田中さんに英語を教えられた。／b. 私は田中さんに意外な事実を教えられた。

3. テモラウの意味・用法

高見・久野(2000)は、日本語では、ある行為により人が利益を受けている場合には、その行為とともに利益を受けているという点も示すのが常識となっていると述べ、機能的分析によってテモラウ構文及びテクレル構文の差違について考察している。そして、テモラウは主語指示物が「ニ」格名詞句指示物(本稿のYにあたる)に働きかけてある行為や事象を引き起こさせたり、あるいはある行為や事象が起こることを望んだり期待したりしてその事象が起こり、その結果、主語指示物(本稿のXにあたる)が利益を得ることを示しており、故に利益を受ける主語指示物は、働きかけたり期待をかけた「ニ」格名詞句

指示物に感謝していると言える述べ、その基本的機能を(9)のように結論づけている。一方テクレルには、「ニ」格名詞句指示物に対する感謝はなく、単にその事象を好都合だと思っていることを表しているにすぎないことがテモラウとの大きな差異であるとする。

(9)「～にVしてもらう」構文の基本的機能：「～にVしてもらう」構文の機能は、その主語指示物が、埋め込み文によって表されている事象により、利益を受けており、その利益が「ニ」格名詞句の指示物のおかげであると考えていることを示すことである。(P14)

高見・久野が指摘するように日本語においてある行為により利益を受けたことを明示することが常識であるならば、なぜ話し手Xは自己が実現を望む事態の引き起こし手に対し利益を受けたことを表すテモラウを使わずに、受身を選択するのであろうか。

また、竹林(1998)は、(10)のような例を挙げ、テモラウには、益を及ぼすことが授益者の意志によるに限らず、テアゲルやテクレルで言い換えることができない、使役的な用法もあるとする。

(10) (ゲームをしながら)今日は君に負けてもらうよ。(下線、竹林)

(11) 社長：山田君に辞めてもらう。

しかし、このような用法は高見・久野では説明できない。熊井(2002)では先立つ動詞の自己制御性や受影性の有無、受益か否かなどの観点からさまざまなテモラウの用法を考察し、テモラウが受益表現を無標としながらも、プロトタイプ的な広がりをもった用法であることを明らかにした。例えば(10)(11)は、それぞれa. 事態実現要求型の①意志表明的用法と②命令的用法にあたるが、(10)が要求としての効力はない、強い意志の表明であるのに対し、(11)は相手に行為をさせる効力もちうるという違いがある。(12)のうち、(9)にあてはまるのは、a. 事態実現要求型③依頼的とb. 事態実現期待型、c. 単純受影型にすぎない。また、意味から見てタイをつけるのはaからcのテモラウであると思われるが、このような多義性はテモライタイで用いられた場合、どのような形で現れてくるのであろうか。この点も考察する必要がある。

(12) 多様なテモラウの用法 (熊井2002より)

a. 事態実現要求型	①意志表明的	例. 今回は負けてもらうよ。
	②命令的	例. 君に北海道へいってもらおう。
	③依頼的	例. 山田さんに頼んで手伝ってもらった。
b. 事態実現期待型		例. ずっと待っていた息子に帰ってきてもらってほっとした。
c. 単純受影型		例. 思いがけない優しい言葉をかけてもらって嬉しかった。
d. 事態実現許容型	①受容的	例. 話したいことがたくさんありそうだったので、そのまま自由に話してもらった。
	②放任的	例. 言っても無駄だったので、すきなようにやってもらった。
e. 事態実現回避要求型	①否定判断的	例. 勝手なことをしてもらってはこまる。
	②反語許容的	例. あなたみたいな人にやめてもらってもちっとも困らない。
	③反語命令的	例. やれるものならやってもらおうじゃない。

4. ラレタイとテモライタイ

4. 1 使われる動詞の傾向

熊井 (2006) は、インターネットなどの用例をもとに、ラレタイと共起する動詞やその用法を分析し、YがXの意図とは無関係に行う行為を表す動詞、即ち「見る」や「認める」のような評価的行為や「愛する」「嫌う」のような感情の働きを表す動詞、あるいは「いじめる」「ふりまわす」のようにXY間にある種の力関係が想定され、YがXに強い影響を与えることを表す動詞を用い、自分に対し一方的にある行為をしてほしい、あるいは相手のいいなりになりたいという状況で多く使われていることを明らかにした。後者の場合には、自己制御性と他動性の高い動詞が多く、Yが意図的・一方的にXに影響を与えることを表すことから、場合によっては暴力的・性的なニュアンスを帯びることにもなる。このような特徴から、Xが直接動作を受けないいわゆる迷惑の受身とは共起しにくいことも明らかになった。この「直接受けない」という意味については後ほど考察する。

表1 ラレタイに前接する動詞

* は語彙的被害をもつ語

動 詞	頻度
言う	9
見る	7
はさむ・抱く	6
いじる	5
包む・認める	4
くどく・ いじめる	3
招く・好く・ ふる ・ 踏む ・救う・ さらう ・つぐ・ しばく	2
愛する・嫌う・呼ぶ・思う・心洗う・告げる・抱きしめる・ またぐ ・ 注文をつける ・ 叱る ・ なじる ・ 突っ込む (記事)・ 長いものに巻かれる ・話しかける・可愛がる・ 虐げる ・ 甘やかす ・ 苦しめる ・ 囲い込む ・ 蹴る ・ 斬る ・ 轆く ・ どつく ・ 縛る ・ やる (炎に)・ つぶす ・ 斬りかかる ・ 血を吸う ・ 開発をする ・ 掘る ・ ヤル ・ 飼う ・ 奪う ・ 連れ去る ・ もてあそぶ ・ ふりまわす ・ あそぶ	1
54	100

この100例以外に、雑誌やインターネットで目にした用例として、以下のようなものがある。

- (13) 「男性は、高貴な女性のために尽くしたい、支配されたいという願望を少なからず持っています。(後略)」(『週刊新潮 9月10日号』60-61) (下線、筆者)
- (14) 「ストスナされたい男たち (中略) 芸能界入りのきっかけとして雑誌に載りたいという若者や、給料のすべてを投資するほど服が大好きな若者など思いはそれぞれですが、その根底には目立ちたい、仲間から一目置かれたい、認められたいという願望が共通しているようです。(goo注目ワード ピックアップ…「ストスナ」されたい男たち 2009年8月24日(月)) (下線、筆者)

(13)の「支配する」は「いじめる」「ふりまわす」同様、XY間にある種の力関係が想定され、YがXに強い影響を与えることを表す動詞にあたる。一方(14)の「ストスナ」とは、「ストリートスナップ」の略で、「街行く人々の着こなしを撮影したスナップ写真のこと」である。これは撮影スタッフが、街で見かけた人を選んで撮影するわけであるから、こちらがいくら望んでも撮ってもらえない場合の方が多いはずである。つまり、事態はXのコントロールを超えたYの一方的な行為である。もちろん撮影前にXの了承は取るであろうが、このことは「ストスナ」することを止めるという意味のコントロールであって、「ストスナ」しようとするかどうかはあくまでYの意志で、Xにはコントロールできないのである。さらに、(13')のように『ストスナ』してもらおうも可能ではあるが、そうするとXがYに何らかの働きかけをしたことが含意され、一方的に選ばれるというニュアンスや価値が変ってしまう。

また、「一目置く」「認める」は何らかの評価を表す動詞であるが、この評価も、通常Xの意志とは無関係に成立する行為である。これらのラレタイの代わりにテモライタイを用いた(14')も不可能ではないが、XがYに対してなんらかの働きかけを行っていることが含意され、ラレタイを用いた(14)とはかなりニュアンスが異なる。

(13') # 男性は、高貴な女性のために尽くしたい、支配してもらいたいという願望を少なからず持っています。

(14') # 「ストスナ」してもらいたい男たち (中略) 仲間から一目置いてもらいたい、認めてもらいたい。

一方、熊井(2006)と同様の方法でインターネットでテモライタイの用例を検索したところ、表2のように、用いられた動詞では、100例中「やる」が22件、「やめる」が15件と多いものの、それ以外の動詞には、ラレタイとは異なり、特に共通の意味特徴は見られなかった。

表2 テモライタイに前接する動詞

動 詞	頻度
やる	22
やめる	15
見る	7
聞く・作る	5
知る+知っておく	3
(音楽を) かける・責任をとる	2
メッセージを入れる・期待する・CD(テープ)化する・またぐ・取材にくる・始める・学ぶ・大切にする・(CMに)出る・引き渡す・教える・過ごす・民営化する・なんとかなっている・「感じ」る・ネットで交流する・覚える・興味もつ・話題にする・キモに銘じる・調整を進める・考える・載せる・堪能する・傍にいる・見せる・正義をただす・メガネをかける・しつける・ガンバル・続ける・なつく・(電話を)かける・配慮する・手当を二倍にする・かなえる・対策を講じる・濁を入れる・あきらめる	1
47	100

(15) 彼女にあきらめてもらいたい(海外挙式か国内披露宴のどちらかをあきらめてもらいたいです。) †⁽³⁾

また、ラレタイでは、用いられた動詞の半数以上が語彙的被害をもつ語であったのに対し、テモラウは、(16)のような悪い意味の動詞を用いることも可能ではあるが、今回の調査では、そのような用例は見られなかった。

(16) 山田さんに失敗してもらいたい。

以上のことから、用いられる動詞にはっきりした傾向と制約のあるラレタイに対し、テモライタイのほう是用いられる動詞に特別な傾向や制約は見られないことがわかった。このことは、Xがある行為を一方的に受けることを望み、それだからこそ意味があることを表すことがラレタイの基本的な用法であることを示している。

4. 2 言い換え可能性

次に、ラレタイ・テモライタイが相互に入れ替え可能かどうかを考える。それに先立ち、まずラレルとテモラウの互換性を考える必要がある。ただし、現在形の言いきりの形で文末で用いられた場合にはラレルは事態を表し、テモラウは意志を表すと解釈されやすいため、過去形で比較することにする。

I. 自己制御性

自己制御性の高さから考えると、自己制御性の高い動詞は合意が必要な動詞かどうか、またそれが動詞の意味や文脈からXにとってプラスの意味かどうかによって適否が決まる。(17)の「英語を教える」という行為は通常XとYの合意を前提として成り立つので、a

「教えられた」とすると迷惑の意味が出てくる。当然テモラウを用いたbとは利害において反対の意味となる。一方(18)から(21)のaはどれもXとYの合意は必要としていない。このうち(18)(19)はこの文脈で何らかの意味でその事態の実現がXにとってプラスであると考えられるが、そのような場合aのラレルとbのテモラウにそれほど大きな差は感じられない。一方(20)のように何らかの意味でその事態がXにとってプラスであることが含意されない場合、aは利害においてニュートラル、bは利益となり、(21)のようなマイナスの事態を表す場合にはaとbの利害は正反対となる。

- (17) a. 先生に英語を教えられた／b. #先生に英語を教えてもらった
- (18) a. 懐かしい写真を見せられた／b. 懐かしい写真を見せてもらった
- (19) a. 友だちの家に招待された／b. 友だちの家に招待してもらった
- (20) a. 駅で肩をたたかれた／b. #駅で肩をたたいてもらった
- (21) a. いじめられた／b. #いじめてもらった

これにタイをつけてみると、aラレタイについては、(17')は不自然な文となるが、(18')から(21')のように、いい意味か否かに関わらず、Xの意志と無関係にYがある行為を行うという意味となる。一方bテモライタイは、Yの一方的な行為という意味を表すラレタイとはニュアンスは異なるが、文としては成立する。

- (17') a. ?先生に英語を教えられたい／b. #先生に英語を教えてもらいたい
- (18') a. 懐かしい写真を見せられたい／b. #懐かしい写真を見せてもらいたい
- (19') a. 友だちの家に招待されたい／b. #友だちの家に招待してもらいたい
- (20') a. 駅で肩をたたかれたい／b. #駅で肩をたたいてもらいたい
- (21') a. いじめられたい／b. #いじめてもらいたい

今回の用例では、(22')「弄ぶ」の意味の「あそぶ」のように、本来Xによる働きかけがない、Yの一方的な行為である場合には、テモラウに変えると、「弄ぶ」というコントロールできずにふりかってくるというニュアンスがなくなり、「いっしょに遊ぶ」という意味に受け取られてしまう。(22)のようにタイをつけても同様である。同じように、「斬りかかる」も通常予期せずXに降りかかってくる行為であるが(23')b「斬りかかってもらった」とすると、頼んでやってもらったことが含意される。(23)bのようにタイをつけると、その一方的な行為という意味とテモラウの働きかけ性に矛盾が生じ、Xではない第三者が行為の対象であるような意味に受け取られやすくなる。

- (22) a. あそばれたいの†／b. #あそんでもらいたい
- (22') a. あそばれた／b. #あそんでもらった
- (23) a. カマで・・・斬りかかれたい・・・の†
b. #カマで・・・斬りかかってもらいたい・・・の
- (23') a. カマで・・・斬りかかれた／b. #カマで・・・斬りかかってもらった

逆にテモラウからの言い換えを考えても、(24)(25)のように両者の合意が必要でない場合は、(24)のようにいい意味の事態を表す場合には両者に差はなく、(25)のようにマイナスの事態を表す場合には利害の対立がある。一方(24')(25')のようにタイを付けると、いい意味の場合も悪い意味の場合も a は働きかけが含意され、b とはニュアンスが異なるが、文としては成立する。

- (24) a. 先生にほめてもらった / b. 先生にほめられた
 (24') a. 先生にほめてもらいたい / b. #先生にほめられたい
 (25) a. 先生にしかってもらった / b. 先生にしかられた
 (25') a. 先生にしかってもらいたい / b. #先生にしかられたい

実際の用例を見てみると、(26) a は 2 つの解釈が可能である。一つは X に対して Y がする行為、もう一つは X とは関係なく Y が行う行為である。前者の場合、(26) a・b はニュアンスは異なるが、言い換えは可能である。なお、後者の場合には X が行為の対象ではなく、「あなたにやられる」は迷惑の意味となるので、ラレタイで表すことはできない。

- (26) a. あなたにやってもらいたいこと † / b. #あなたにやられたいこと

また、両者の合意が必要な事態の場合、(27') のように受身 b は Y が X の合意なしにその行為を行うという意味になって、迷惑の意味が生じ、テモラウ a とは利害に関して反対となり、これにタイをつけると(27) b のように不適格な文となる。

- (27) a. そばにいてもらいたい † / b. *そばにいられたい
 (27') a. そばにいてもらった / b. そばにいられた

また、自己制御性の低い動詞の場合は、まず(28)(30)のように過程の自己制御性のある動詞及び(29)(31)のような非意志的動詞を考えてみると、何らかの意味でプラスの意味を持つ場合には(28)(29)のようにラレルとテモラウはそれほど大きな違いは感じられないが、マイナスの意味を持つ動詞の場合には(30)のような過程の自己制御性をもつ動詞も(31)のように非意志的動詞の場合も利害において正反対の意味となる。

- (28) a. 愛された / b. 愛してもらった
 (29) a. なつかれた / b. なつてもらった
 (30) a. 忘れられた / b. #忘れてもらった
 (31) a. みくびられた / b. #みくびってもらった

これにタイをつけると、(29')(31')のように非意志的動詞の場合にはテモライタイからラレタイに言い換えてもそれほど意味は変わらない。例えば(32)「なつく」は非意図的な行為であるから、Yはその事態をコントロールすることはできず、Xの働きかけはYに及ば

ない。一方、(28')(30')や(33)「期待する」は過程の自己制御性をもつ動詞であるが、このようなタイプの動詞はテモライタイではXによる働きかけが含意されるため、文としては成立するが、ニュアンスが変わってくる。

- (28')a. 愛されたい／b. #愛してもらいたい
(29')a. なつかれたい／b. なついてもらいたい
(30')a. 忘れられたい／b. #忘れてもらいたい
(31')a. みくびられたい／b. ?みくびってもらいたい
(32) a. 猫にもっとなついてもらいたい †／b. 猫にもっとなつかれたい
(33) a. 期待してもらいたい †／b. #期待されたい

II. インヴォルヴメント

また、インヴォルヴメントに関しては、これが低い場合には迷惑受身と解釈されるため、当然ラレルを用いた(34) aとテモラウを用いた(34) bは利害に関し正反対の意味を表す。これにタイをつけると、(34') a 迷惑受身のラレタイは不適格な文になってしまう。

- (34) a. 母にアパートに来られた。／b. 母にアパートに来てもらった。
(34') a. *母にアパートに来られたい。／b. 母にアパートに来てもらいたい。

逆にテモライタイをラレタイで言い換えられる場合の適否を決定する大きな要因は、Xが行為の対象となっているか否かである。これもXが行為に直接インヴォルヴされているかどうかということであり、インヴォルヴメントの程度が深く関わっていることがわかる。例えば、(35')(36')のテモラウとラレルは利害において反対の意味となるが、文としては成立する。しかし、それにタイをつけると(35) b (36) bのようにXが行為の対象でない場合は不適格となる。ただし、Xがその行為の対象となりうる動詞の場合には、(37) bのように文としては成立する場合もあるが、Xが行為の対象であるという意味に変わってくる。

- (35) a. 顔文字をやめてもらいたいんです。 †／b. *顔文字をやめられたいんです。
(35')a. 顔文字をやめてもらった。／b. 顔文字をやめられた。
(36) a. 子供に良いメガネをかけてもらいたい。／b. *子供に良いメガネをかけられたい。
(36')a. 子供に良いメガネをかけてもらった。／ † b. 子供に良いメガネをかけられた。
(37) a. 大人にじっくり見てもらいたい。 †／b. #大人にじっくり見られたい。

III. 働きかけ先が存在しない場合

また、働きかけ先が存在しない場合もテモラウでは言い換えにくい。(38')の「罪から救われる」は救ってくれる主体を必ずしも必要としないが、「救ってもらった」とするとYの存在が前提となるため、意味が変わってくる。これはタイをつけても同様である。

- (38) a. 「罪から救われたい」と思うあなたへ † / b. # 「罪から救ってもらいたい」と
 思うあなたへ
 (38') a. 罪から救われた / b. # 罪から救ってもらった

IV. もともと対応する能動文やテモラウがない場合

評価を表す「見ラレル」などもテモラウにすると不自然になる。そもそも(39) c 「若く見る」という能動文自体が不自然な文である。同じように(40) c 「好く」も単独で能動文には用いられにくく、「好いてもらう」も不自然である。タイをつけてもその不自然さは変わらない。

- (39) a. 無理ない範囲で若く見られたい † / b. ? 無理ない範囲で若く見てもらいたい
 c. * 若く見る
 (40) a. 誰からも好かれたい!! † / b. ? 誰からも好いてもらいたい!!
 c. * 誰もが好く

V. Yが非情物

今回の調査ではYが非情物である場合は(41)(42)(43) a の3件のみであった。(43) a は二格は明示されていないが、文脈からそのように判断されるものである。一方、テモライタイはそのような例は見られなかった。

- (41) a. ハンモックで音に包まれたい †
 (42) a. 長いものに巻かれたいやつら †
 (43) a. 心あられたい方に †

テモラウを用いた文の適格性について高見・久野(2000)は、テモラウ構文の基本的機能を満たすための語用論的要因としての2つの階層及び利益の意味に関する階層を(44)のように数値化して分析し、Yが非情物の場合には利益の意味が明示されているかどうかなどの条件を満たさないとテモラウになりにくいことを明らかにしている。

(45) a・b・cは高見・久野が挙げた例であるが、この3つは人間度・自力度でそれぞれ0点、2点を獲得し、(45) aは先行利益度・後続利益度がなく、それぞれ-2点、-1点となり、計-1点で不適格とされる。これに対して(45) bは先行利益度は-2点であるが、後続利益度が1点で、計1点となり、依然不適格ではあるが(45) aに比べて適格性は高いとされる。一方(45) cは先行利益度が2点、後続利益度は-1点となり、計3点で、適格となる。

(44) 「～にVてもらう」構文の数値分析

「ニ」格名詞句になりやすさの階層（以下、人間度。注筆者）：			
人間	動物	自然の力	無生物
2	1	0	-1
「～にVてもらう」構文になりやすい事象（以下、自力度。注筆者）：			
「ニ」格名詞句	無生物や自然の力など	人間や動物などの外的	
自らが引き起こす事象	の外的要因が引き起こす事象	要因が引き起こす事象	
2	0	-3	
「もらう」の先行文脈で示される利益の階層（以下、先行利益度。注筆者）：			
明示	含意	なし	
2	0	-2	
「もらう」の後続文脈で示される利益の階層（以下、後続利益度。注筆者）：			
明示	なし		
1	-1		

- (45) a. *僕は、雨に降ってもらった。 -1 [不適格]
 b. *雨に降ってもらい、こんなに木々の緑が鮮やかになった。 1 [不適格]
 c. こんなに木々の緑が鮮やかなのは、昨夜恵みの雨に降ってもらったからだ。 3 [適格]
 d. ?僕は、雨に降ってもらいたい。

ただし、Yが非情物の場合でも、(45) dのようにタイを後接させるとその適格度は上がる。これはタイを用いることによって、いわゆる利益を表す文脈がなくても、その事態がXの待ち望む、Xにとって利益となる事態であることが含意されるためであると思われる。

先の(41)でも、テモライタイを用いた(41) bもやや不自然ではあるが、テモラウのみを用いた(41) cに比べれば、いくらかその適格性は高いように思われる。また、(42) aは「長いものには巻かれよ」ということわざがあるように、「長いものに巻かれる」でひとまとまりとなり、(42) bのような能動文は成立しない。同様に(43) aも「心あらわれる」の形でヲ格を伴わずに使われることも多いが、このヲ格を補っても、(43) cのような能動文にはならない。このような受身はテモライタイにはなりにくい、それは、Yが動作の引き起こし手としての資格を欠いているためであろう。

- (41) b. ?ハンモックで音に包んでももらいたい
 c. *ハンモックで音に包んでもらった
 d. ハンモックで音が(私を)包んだ
 (42) b. *長いものがやつらを巻く / c. *長いものに巻いてもらいたい
 (43) b. 心(を)あらわれたい / c. (～が私の)心をあらった
 d. *心をあらってもらいたい

VI. Yに行為の実現を直接働きかけていない場合（もんだね、連体修飾etc.）で、XとYの合意が必要でないもの

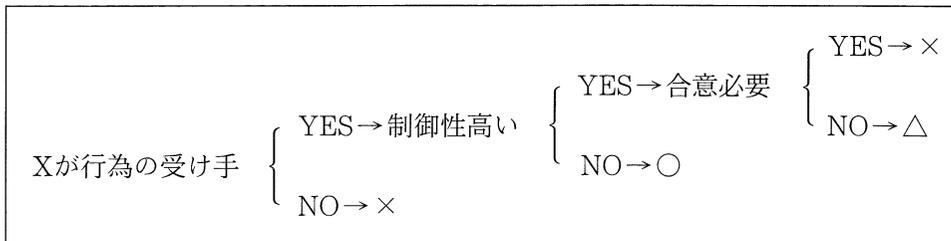
(46")でわかるように、このような動詞の場合、ラレルは利害に関してニュートラルであり、受益を表すテモラウとは異なった意味を表す。しかし、(46) a・(47) aは、「ものだ」や「やつ」が後接してテモライタイが言い切りではなく、行為の実現をYに直接働きかけていない。その場合、(46) a b・(47) a bのように、テモライタイとラレタイの差はそれほどなくなるように思われる。

- (46) a. またいでもらいたいもんだね † / b. またがれたいもんだね。
- (46') a. またいでもらいたい。 / b. またがれたい。
- (46") a. またいでもらった。 / b. またがれた。
- (47) a. 渴を入れてもらいたいヤツ来い！ † / b. 渴を入れられたいヤツ来い！
- (47') a. 渴を入れてもらいたい。 / b. 渴を入れられたい。

一方これらをタイの言い切りの形にすると、(46')・(47')のように、働きかけを含意するaとそうではないbで、ニュアンスは変わってくる。

以上の考察から、テモライタイからラレタイの言い換えは、Xが動作の受け手ではない場合や、Xが受け手であっても自己制御性が高く、合意が必要な行為の場合は不適格になり、Xが動作の受け手で、動詞の自己制御性が低い動詞の場合で可能となること、反対に自己制御性が高く合意の必要のない場合には言い換えは可能であるがニュアンスが変化することがわかった。逆に言えば、テモライタイをラレタイに変えると、行為の対象がXそのものという解釈になるとともに、頼んだりして働きかけている感じがなくなり、Xの意志を越えてYが一方的にその行為をする意味になるということである。このように、XがY=VラレタイはXがVの表す動詞の行為の対象である場合のみに成立するのに対し、XがY=Vテモライタイは、XがVの表す行為に直接関係ない場合にも成立することも大きな違いであることがわかった。

(48)テモライタイ→ラレタイの互換性



4. 3 働きかけ性から見た特徴

ラレタイ100例のうち、Yが聞き手で、聞き手に直接働きかけているのはわずか7例で

あった。一方テモライタイの場合は、100例のうち、Yが聞き手で、聞き手に直接働きかけている例は37例、37%であった。このことから、テモライタイはXの願望の表明だけでなく、聞き手に直接働きかける行為要求の機能を持って用いられることも多いが、ラレタイは、単なる願望の表現として用いられ、行為要求として用いられる場合は多くないことがわかった。

(49) カウントダウンのイベントは徹底レポートをする予定なので、期待してもらいたい。†

(50) キミに飼われたい (前略) †

5. 見られたいと見てもらいたい

ここで、ラレタイ・テモライタイいずれにも比較的多く用いられていた「見る」の用例をもとに両者の違いを考察することにする。それぞれの形式に同じ動詞がどのような意味で用いられているのか、見る対象は何かを分析することで、両者の違いがより鮮明になると思われるからである。

5. 1 見ラレタイ

見ラレタイについては、用いられた見ル200件のうち、最も基本的な用法である「目で事物の存在などをとらえる」「視覚に入れる」という意味の例が63件、31.5%であった。なお、今回の用例では、これと「鑑賞する・見物・見学する」の境目があいまいなため、両者をまとめて「視覚に入れる」こととした。残り137件、68.5%が、観察し、判断する「評価する」という意味の用例であった。

(51) 旦那にもっと見られたい †

(52) 10歳若く見られたい。 †

(53) 見られたい肌 †

「視覚に入れる」という意味での見ルを主体別にまとめたものが表3である。見ルの中には、XがY=Vラレタイのように、見られたい主体(X)と見られる対象(X)が一致している場合(A)が34件(54.0%)、XがY=Z≠Vラレタイのように、見られたい主体(X)と見られる対象(Z)が一致していないものが、29件(46.0%)であった。後者の場合、見られる対象(Z)は主体の身体部分や着衣(B1)・行為(B2)・作品(B3)・排泄物(B4)で、親族(B5)や持ち物(B6)は1件もなかった。ただし、AとB1・B2の区分は必ずしも明確ではなく、直接の対象はXであっても、文脈からXの身体部分や何らかの行為を想像させるものもあった。

表3 見ラレタイ見ル対象

見る対象			件数	
視覚に入れる	A	X	34	
	B	Xの	1. 身体・着衣	10
			2. 行為	12
			3. 作品	6
			4. 排泄物	1
			5. 親族	0
			6. 持ち物	0
小計			63	
評価	C	1. N/Naに	37	
		2. Iaく	67	
		3. ふうに／ように	2	
		4. として	6	
		5. こう	3	
		6. どう／どのように	13	
		7. どのぐらいの～に	2	
		8. ～と／って	5	
		9. ～で	1	
		10. そう	1	
小計			137	
計			200	

これに、第2節で述べた山内の「Zヲ」を省略しても文の意味が変化しないかどうかのテストをしてみると、着衣（B1）・行為（B2）は論理関係の矛盾は生じず、作品（B6）についても6件中4件は自分の行為が写っている動画や写真であり、Xと同一視しても問題ないことがわかった。これらはXが直接の行為の対象であることを意味する。これらを合わせると、Zが省略できるものは29件中26件、9割にあたる。この26件にさきの見られたい主体（X）と見られる対象（X）が一致している場合（A）の34件を合わせると60件となり、視覚に入れる意味の見ルを用いた見ラレタイ63件中60件、95.2%は見られたい対象が自分であることがわかる。Zを省略すると論理的に矛盾が生ずるのは、作品（B6）の6件中2件の壁紙用の「自分が撮った写真」と「隠しページ」及び排泄物（B4）1件、計3件のみであったが、これらも親族（B5）や持ち物（B6）に比べればXと切り離しにくく、Xそのもの、あるいはXを具現化した対象と言えるであろう。

また、見ルは他動詞ではあるが、インヴォルヴされる程度が低く、通常(54)bのように受身文では能動文にない迷惑の意味が生じるとされる。今回の用例でも視覚に入れる意味での見ラレはタイを取ると(54)bのような能動文にはない迷惑の意味が出てくる。

(54) a. 女の子に見られたい。† / b. 女の子に見られた。

c. 女の子が（僕を）見た⁽⁴⁾。

このインヴォルヴメントは当然Aが最も強く、次いでB1からB4を経て、親族（B5）や持ち物（B6）で弱くなると思われるが、見ラレタイにはB5・6のような例はなく、いわゆる第三者の受身も見られなかった。これは熊井（2006）の結果とも一致する。Yの見るという行為がXに直接向けられていると解釈できる場合、即ち見られたいものが自分や自分と同一視できる対象である場合に視界に入れるという意味での見ルを用いた見ラレタイが可能になることになる。反対にZをXと同一視できない場合には「行為を直接受けない」ということを表し、文として成立しにくい。

一方評価を表す見ラレルでは、い形容詞の連用形が前接する、～見ラレタイが67件、48.9%と最も多く、次いでな形容詞の連用形や名詞+前置詞が前節する～見ラレタイが37件、27.0%、次いで、その疑問詞の形である「どう」・「どのように」が13件、9.5%の順となる。

前接するい形容詞では「若く」が47件で、3割を占め、「かっこよく」5件、「よく」と「かわいく」が4件ずつとなっている。な形容詞では「きれいに」が6件、名詞では「年相応」が同じく6件と最も多く、次いで「大人」4件となっている。いずれも自分でコントロールするのはむずかしい事態である。

評価の場合の「見る」もインヴォルヴメントは高くないが、熊井（2003）で考察したように、評価は通常Xの意志とは無関係に行われるYの非意図的・自立的な行為であるため、タイを取った受身形には迷惑の意味はない。この場合も見ラレル対象はすべてタイの主体と同じXであり、視覚に入る場合の見ル同様、見ルという行為がXのコントロールの及ばないところでX自身に一方向的に降りかかってくる場合のみに可能であることがわかった。

(55) a. 若く見られたい。 † / b. 若く見られる。

また、見ル主体については、視覚に入る方の見ルは63例中13件で主体が明記されていたが、そのうち特定の人物に限定されている例は4件であった。評価の見ルは137例中、7例、そのうち6例は「誰からも」や「異性から」のような不特定の対象であった。このように、見ラレタイの場合、見ル主体が特定されていない場合が180例、9割にのぼる。

以上のように、今回の調査では、見ラレタイは、不特定の主体からなんらかの評価を受けることを望むという用例が圧倒的に多く、次いで不特定の主体から視線を向けられることを望むという例が多かった。これも、Xの働きかけの及ばないYの一方向的な行為として成立するある事態の実現をXが望むというラレタイの性質によるものであると言える。

5. 2 見テモライタイ

見テモライタイについては、見ルの意味及び見テモライタイ主体と見る主体・対象について考察する。同時に恩恵の表現であるテモラウにタイが後接されることで、その用法がどのように変化するかを見ていくことにする。

まず、動詞の意味については、(56)のように、ホームページや映画、記事や作品を見る

「鑑賞・見物・見学する」という意味の見ルが最も多く、200例中、159件、自分や自分の身体の部分や何かをしている姿を見ルが12件だった。この中には見物するなどの意味での見ルと区別がむずかしい例もあったが、今回は見る対象が広い意味で自分自身である場合は視覚に入れるという意味での見ルとした。この見物・視覚を合わせると171件となる。このうち、自己や自己の関係する組織が作成したものや自分が所属する場所を誰かに見てほしいというものが136件、79.5%であった。また、見る対象がインターネット上の掲載物になっている例は、90件、5割強と、非常に多かった。

このほかには、(57)のように専門家に手相や身体、回答・機械などを見て判断・診断・治療などをしてもらいたい意味での見ルが17件、(58)のようにどのように受け止めてほしいかという判断・評価が7件であった。さらに、「大目に見る」2件、「面倒を見る」1件であった。

(56)自分のブログを他の人に見てもらいたいのですが。†

(57)手相を見てもらいたいんですが(後略)。†

(58)女性として見てもらいたい。†

以上のことから、見テモライタイの形で用いられる場合、自分となんからの意味で関係のある対象を鑑賞・見物・見学してほしいという行為要求の機能をもって使われている例が非常に多いことがわかる。これは、このような意味でのテモラウが最も働きかけがしやすいからであろう。

表4 見テモライタイの見る対象

見ルの意味	見 る 対 象		
鑑賞・見物 学・見物	DVD・映画・番組・ビデオ・アーティストetc.		35
	インター ネット上	HP・ブログ・プロフ・サイト・ページ・掲示板 ・ファイルetc.	52
		動画・写真・画像・公開した物・日記etc.	27
		お知らせ・広告・情報・ニュース・記事etc.	11
	絵・衣装・作品・家・商品etc.		18
	場 所		7
	イベント(ライブ・パーティーetc.)		7
	花・模型		1
	行 為		1
	小 計		159
視覚に入れる	自 分	姿・顔・行為・身体部分	12
	小 計		12
計			171

さらに今回の用例を見ると、見る対象は(59) aのように、自分や自分の作品あるいは何

らかの意味で自分と関係のある対象でなくてもよく、それ故Yの行為がXの利益にならない場合も見られた。このような場合、Yがその行為を行ったとしても、それがXの利益になるわけではなく、寧ろそれが一義的にはYにとっての利益であり、Xがその現実を望むという意味で用いられていることがわかる。ただし、実際にはその事態の実現をYが利益と捉えるかどうかはわからないので、正確に言えば、実現がYにとって望ましいことであるとXが考える事態の実現をXが願う表現であるといえる。

- (59) a. 若者にはいい映画を見てもらいたい。†
b. #私たち (=若者) はいい映画を見てあげた。

これは、Yが、例えば「(君たち) 若者」のように二人称を含む対象である場合にはYに対する直接的な働きかけになりうるが、Yが三人称の場合には単なる願望の表現となる。どちらの場合でも、Yが実際にその行為をしたとしても、YはXのためにその行為をしたわけではないから、例えば(59) a の場合、(59) b のようにYがX=etc.Vテアゲタとはならない。さらにXもその行為自体から恩恵を受けるわけではないので、テモラウやテクレルを用いて(59') a・bのように表現されるともかぎらない。

- (59') a. #私は若者にいい映画を見もらった。
b. #若者は (私のために、) いい映画を見てくれた。

さらに、例えば(60)のように、事態の実現がYの利益というよりも、第三者や社会にとって望ましいことであると捉えられる場合もある。

- (60) 若者には世の中のために働いてもらいたい。

(59)(60)で用いられたテモラウは、(12)の熊井(2002)の分類にも当てはまらない。

(10) (ゲームをしながら) 今日は君に負けてもらうよ。(下線、竹林。再掲)

(11) a. 社長：山田君に辞めてもらう。(再掲)

b. 社長：山田君に辞めてもらいたい。

(61) a. 話したいことがたくさんありそうだったので、そのまま自由に話してもらった。

b. 話したいことがたくさんありそうなので、そのまま自由に話してもらいたい。

(62) a. 言っても無駄だったので、すきなようにやってもらった。

b. 言っても無駄なので、すきなようにやってもらいたい。

(10)(11) b (59) a (60)の共通点は、Xが事態の実現を何らかの意味で好ましいことと捉え、その事態実現を望んでいる点であり、熊井(2002)の分類ではa. 事態実現要求型に属するといえるが、(11) bと(10)(59) a (60)の違いは、前者がXが事態の実現に対する権限を持っているのに対し、後者は必ずしもそうではないという点であり、(10)と(59) a

(60)の違いは、前者が強い意志表明として言いきりで用いられるのに対し、後者はテモライタイの形で、願望の表現としてのみ可能であるという点である。(59)(60)のように、テモライタイには、その事態の実現が何らかの対象にとって望ましいあるいは当然であると捉え、それを望む用法があることがわかるが、これはタイの形で用いられた場合のテモラウの用法の拡張であるといえるであろう。本稿ではこのようなテモラウを「希望的用法」と仮称する。

また、タイをつけると、(10)のような a. 意思表明的用法は Y が意図的に負けることを要求する場合を除いて、(10')のように単なる希望・願望の表現となる。(11) a のような b. 命令的用法や(63)のような c. 依頼的用法は(11) b や(63)のように行為要求の表現となるが、前者は事態実現の権限を持っているのに対し、後者はそうではないという違いがある。これはテモラウのときの両者の権限の有無と一致する。さらに、(64)のような b. 事態実現期待型と(65)のような c. 単純受影型はともにタイをつけると権限のない願望の表現となる。

- (10')今日は君に負けてもらいたい。
- (63)山田さんに手伝ってもらいたい。
- (64)息子に帰ってきてもらいたい。
- (65)みんなに優しい言葉をかけてもらいたい。

表5 テモラウの用法

	テモラウの種類	使用制限	例文	権限	テモライタイの機能	受益
a. 事態実現要求型	①希望表明的	○ ~タイ	(60)	×	願望・アドバイス	×
	②意志表明的	○ 言い切り	(10')	×	願望	×
	③命令的	—	(11)b	○	行為要求	×
	④依頼的	—	(63)	×	行為要求	○
b. 事態実現期待型		—	(64)	×	願望	○
c. 単純受影型		—	(65)	×	願望	○
d. 事態実現許容型	①受容的	—	(61)b	×	願望	×
	②放任的	—	(62)b	×	願望	×
f. 事態実現回避要求型	①否定判断的	○				
	③反語命令的	○				

このように、テモラウには多様な用法があるが、その中にはタイの形でのみ用いられるものや、タイをつけるともとのテモラウの多様性が解消される場合もあることがわかった。また、これらは、Xの権限の程度によって希望・お願い・アドバイスや要求などの機能を持って用いられることになる。

6. おわりに

以上の考察から、ラレタイはYの善意や意志に関係なく、また自分の働きかけと無関係にある人が自分に対しある行為を行い、それが自分に及ぶことを望む表現であり、それ故Xが行為の受け手であり、自己制御性が低いVやXとYの合意の必要ないVの場合に用いられ、用いられるVに大きな制約がある一方、テモライタイにはこのようなVの制約はないが、この形で用いられるとテモラウの意味に変化や拡張が見られ、自分が働きかけたり、期待したり、当然起こるべきだと思っている事態が起こることを求める表現となって、その権限の程度に応じてさまざまな機能を持つことになることが明らかになった。この二つは以上のような差違やXがコントロール出来る事態かどうかや働きかけ性、インヴォルグメントの程度などの違いなどの要因により、互換性の有無が決定されることもわかった。

【注】

1. 熊井(2002)及び、本稿3参照のこと。
2. *は文として不適格、?は不自然、#は文としては適格だが対応する文とは意味が異なることを表す。
3. †はインターネットのgoogleで検索した用例であることを表す。
4. (僕を)は筆者。「女の子に見られた」は文脈がないと「男の子ではなく女の子として見られたい」の解釈も可能であるが、用例では「彼女ほしい。」という文のあとに用いられ、「女の子に自分を見てほしい」という意味であることがわかる。

【参考文献】

- 久野 暉 (1983)『新日本文法研究』大修館書店
- 熊井浩子 (2002)「テモラウの意味と機能」『静大國語』13・14号 (静岡大学国語教育学会)
- (2003)「日本語受動文の迷惑性について」『静岡大学留学生センター紀要』2号, 25-43
- (2006)「ラレタイの意味と機能」『静岡大学留学生センター紀要』5号, 1-14
- 柴谷方良 (1997)『『迷惑受身』の意味論』(川端善明・仁田義雄編『日本語文法体系と方法』ひつじ書房
- 高見健一・久野 暉 (2000)「～がVしてくれる」構文と「～にVしてもらう」構文—機能的分析—、未発表論文
- 竹林一志 (1998)「日本語の「～にVしてもらう」構文について—非対格性との関連をめぐって—」『言語』27: 9, 115-120
- 山内博之 (1997)「日本語の受身文における「持ち主の受身」の位置づけについて」『日本語教育』92号, 119-130

On the Meanings and Usages of *Raretai* and *Temoraitai*

KUMAI, Hiroko

This paper argues the meanings and functions of *Xga Yni (Zwo) Vraretai* in comparison to *Xga Yni (Zwo) Vtemoraitai*. Through the analysis of examples, it is found that *raretai* can co-occur with the limited types of verbs and can be used only when the object of the actions is X, or Z which can be identified with X, while *temoraitai* does not have such restrictions. They are partially interchangeable depending on the different degree of controllability, causativity, involvement, and so force of the verb. In addition, in a comparison of *miraretai* and *mitemoraitai* it is discussed that the former is often used as expressions of wish to set someone's eyes on X or to have an evaluation about X while the latter is used as directions requiring Y to see X's work or something related to X. Moreover, when used with -tai, changes or expansion in the use of *temoau appear*.